

2024年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	幻想のフラヌール 版画家たちの夢・現・幻			担当者名	藤村拓也		
会期	2024年6月1日(土)～9月1日(日)			開催日数	80日間		
協賛・後援・協力	なし						
巡回館	なし						
展覧会概要	<p>版画を見る者や版画家の幻想的な世界を映し出す「鏡」とみなし、その魅力を紹介した展覧会。夢と現実と幻を揺蕩うかのような作品世界を生み出す版画家を、フランス語で「遊歩者」を意味する「フラヌール」に喩え、展覧会名とした。また、企画協力を美術評論家の相馬俊樹氏をむかえ、計25人の版画家たちの作品を9つのテーマで分類・紹介し、約150点の収蔵作品で展覧会を構成した。</p>						
ねらい・対象	<p>不可思議なモチーフや奇妙なフォルムで魅了する作品だけでなく、日常を幻想に変容させたかのような作品も紹介することで、既存の幻想観の刷新を企図した。また文学作品を靈感源とした作家や、小説の装丁に作品が採用された作家などを通じて、絵と言葉、そして版画とイラストレーションの親和性を浮かび上がらせることをもねらった。対象は版画を中心とした美術や幻想文学の愛好者、版画やイラストレーションに携わる制作者など。</p>						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	記念対談	6月22日(土)	—	谷川渥(美学者) 相馬俊樹(美術評論家)	68		
	ワークショップ	8月24日(土)	幻想採取 コラージュで作るイメージの標本匣	池田俊彦(銅版画家) 当館普及係(実施協力)	10		
	プロムナードコンサート	7月14日(日)	音で誘う幻想的な廻廊へ	岩谷明石(ヴァイオリン) 永易理恵(ピアノ)	147		
	ギャラリートーク	6月8日(土) 7月27日(土) 8月10日(土)	—	藤村拓也(担当学芸員)	66		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	800 円	400 円	無料	・初日:6/1 ・シルバーデー(満65歳以上無料):6/26、7/24、8/28			
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5,606 人	2,334 人	7,940 人	6,900 人	615 人	425 人	0 人
	目標値	9,846 人					
主な収入	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源
	3,520 千円		— 千円		1,214 千円		— 千円
事業経費	<ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼 55千円 ・事業協力謝礼 200千円 ・著作権使用申請委託料 13千円 ・設置・撤去委託料 706千円 ・作品額装委託料 600千円 ・広告・宣伝委託料 120千円 ・ポスター等作成委託料 499千円 ・ディスプレイ作成委託料 847千円 ・イベント企画運営委託料(ポスター・チラシ発送) 29千円 			3,069 千円			
主な広報・取材等	<p>【テレビ】「東京サイト」(テレビ朝日)、「地モトNEWS」(イツコム) 【新聞】『読売新聞』、『しんぶん赤旗』、『日本教育新聞』、『新美術新聞』 【雑誌】『美術の窓』、『版画芸術』ほか 【ウェブ】「美術展ナビ」、「アートアジェンダ」、「ファッションプレス」ほか</p>						

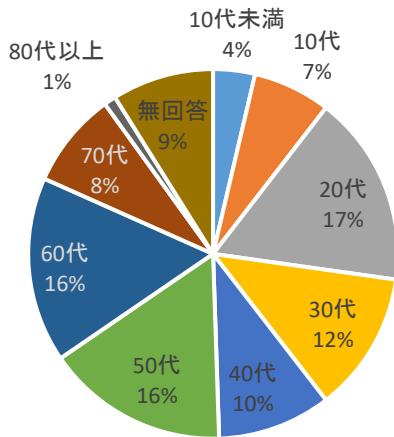
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	341 件	4.3 %	20 %	61 %	95.7 %	94.4 %	85.4 %
	主なご意見	別紙参照					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2024年1月頃から企画協力者の相馬俊樹氏との打ち合わせを行い、展覧会の構成や出品作を決定した。互いに出品作家や作品を提示し、テーマやコンセプトでこれらを分類することで、展覧会の骨子を固めていった。同時に関連催事の対談についても、同氏の協力を仰ぎながら準備を進めた。					
	作品選択	当館の収蔵品から作品を選択した。当館では前例の無いテーマを設定したことにより、今まで展示する機会の無かった作家・作品にスポットを当てることができた。また相馬氏の助言により、当館が毎年収蔵している全国大学版画展の受賞作品も活用することができた。					
	リーフレット	相馬俊樹氏による評論と、担当学芸員による解説を掲載したリーフレットを3200部作成した。各作家の作品世界の魅力に迫る内容で、16頁ながら充実したものとなった。また、アンケートに図録を求める声が多く寄せられた。なお、リーフレットに掲載することの多い出品リストは、別途庁内で印刷し、会場で配布した。					
	広報	ポスターとチラシには多賀新の《三界》を採用し、人目をひくデザインとした。ホームページやSNSのメイン画像も、印刷物と同じデザインで作成し、展覧会のブランディングを図った。またオンラインプレスリリースを通じて、効率的かつ効果的な多方面へのリーチを狙った。関連催事の告知もSNSを通じて、こまめに発信した。					
	ディスプレイ	鑑賞時に個性的な作品が干渉しあわないように、壁面を作家ごとに分けたり、間隔を広く開けたりするなどの工夫を行った。また可動壁の間を空けて見通しをよくすることで、空間の圧迫感による鑑賞者のストレスの軽減を狙った。くわえて、順路を示す矢印の看板を各所に置き、床面に矢印シールを貼ることで、鑑賞者の動線をよりスムーズにすることを狙った。					
	イベント	上記「関連催事」のとおり、記念対談、ワークショップ、プロムナードコンサート、ギャラリートークを実施した。記念対談は協力者と、ワークショップは協力者と普及係と、プロムナードコンサートは管理係と、準備段階で密な連絡をとり、当日の実施も含めて、円滑に進めることができた。					
	小中学生向けのガイドとキャプション	当館の美術館教育担当学芸員である川添愛奈が、子どもむけキャプションとワークシートを作成した。作品の細部に注目したり、作品を見比べたり、見て考えたことを伝えたりすることを促すことを狙った。難解な作品も分かり易く解説したキャプションは、大人にも好評であった。					
その他特記事項	章構成と作家は以下のとおり。「刻線の魔力(木村茂、木原康行、門坂流)」、「(エロス)の形態学(パウル・ウンダーリッヒ、ヨルク・シュマイサー、多賀新、ハンス・ベルメール)」、「時空の(アナモルフォーシス)(エリック・デマジエール、星野美智子)」、「神話の(イマジネール)(エルンスト・フックス、藤川汎正、蒲地清爾)」、「生・命・力(池田俊彦、山田彩加、西村沙由里)」、「語り、詠う幻像たち(小林ドンゲ、清原啓子、アンティエ・グメルス)」、「夢の敷居(坂東壯一、渡辺千尋)」、「鏡像の宇宙(加藤清美、日和崎尊夫)」、「腐蝕の傷痕(ホルスト・ヤンセン、菊池伶司)」。						
館長からの指導点							
運営協議会での検証							

「幻想のフラヌール 版画家たちの夢・現・幻」展 アンケート集計結果

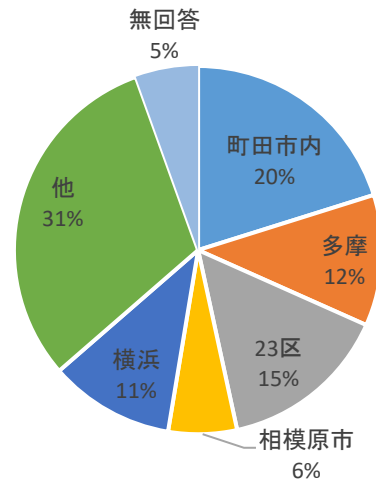
開催期間：2024年6月1日（土）～9月1日（日）

回答者数： 341 人（総入館者数：7,940人 アンケート回収率： 4.3%）

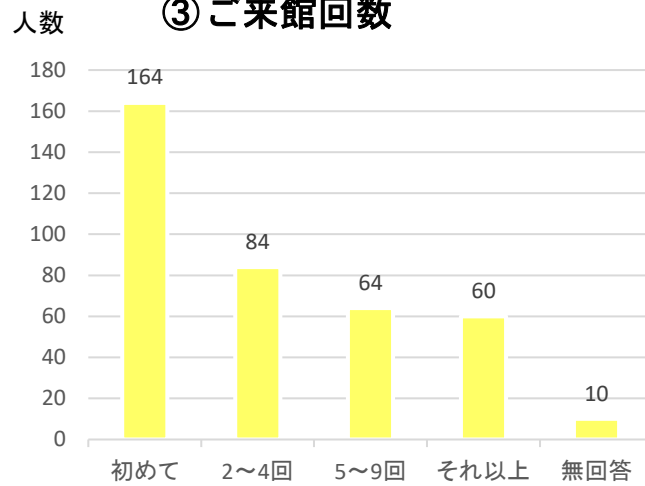
① 年齢層



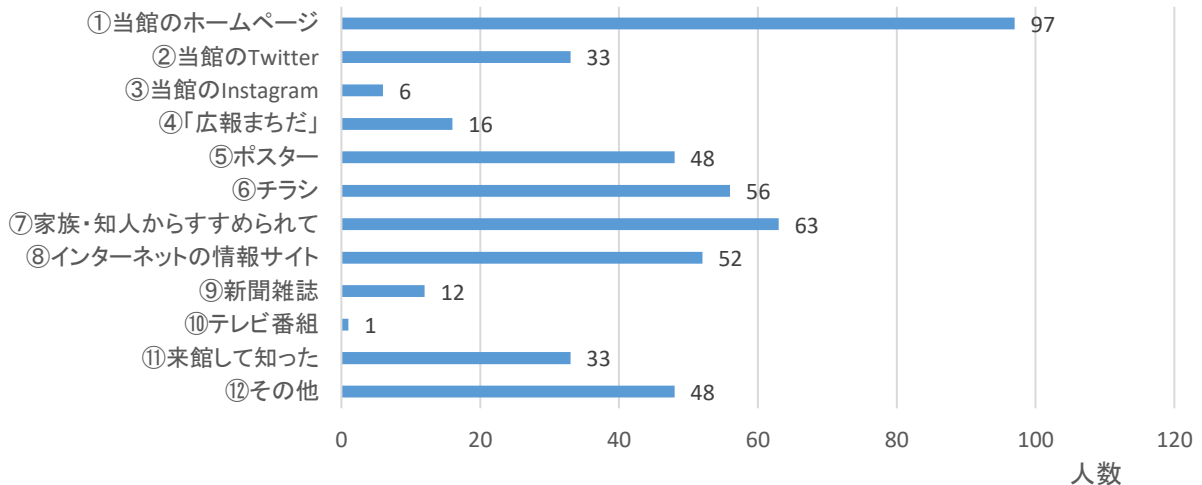
② お住まい



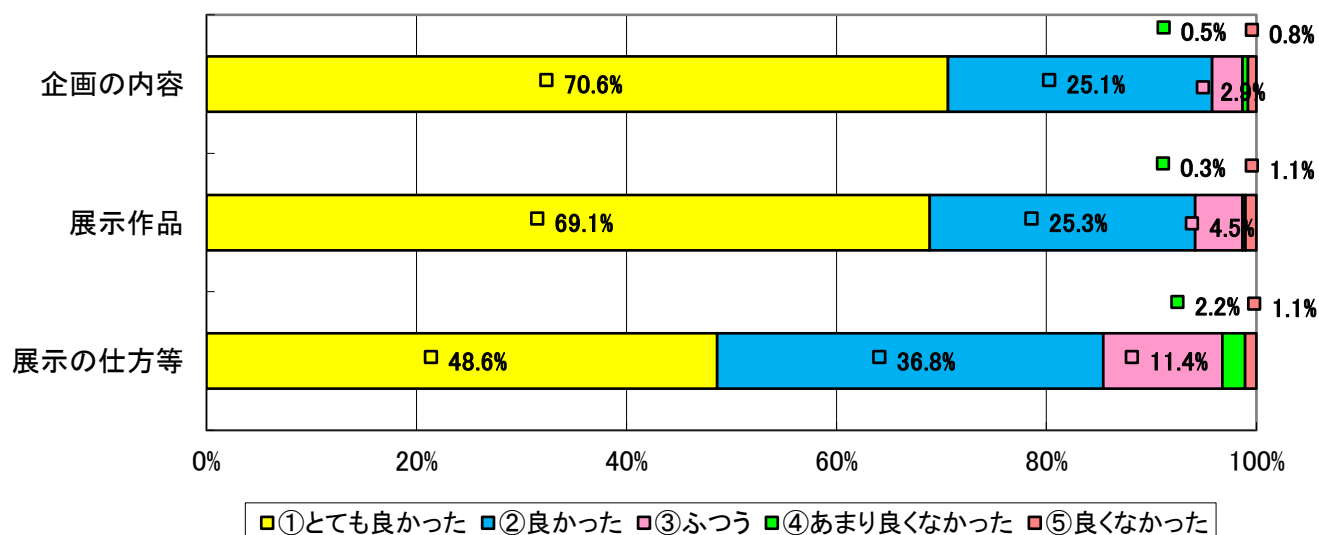
③ ご来館回数



展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

- ◆テーマ(幻想、版画など)がよかった。
- ◆順路(動線)がわかりやすかった。
- ◆子ども向けキャプションやワークシートが大人でも楽しめた。
- ◆ギャラリートークがよかった。
- ◆リーフレットが充実していた。
- ◆知らなかった作家や作品を見ることができてよかった。
- ◆多くの作品をじっくり見ることができた。
- ◆スタッフ(受付、看視員)の対応が親切で丁寧だった。

(以下は要望等の意見)

- ◇作家の略歴や技法の解説があればよかった。
- ◇テーマや解説が難しかった。
- ◇室内が暗く、作品が見づらかった。
- ◇ガラスやアクリルが反射して作品が見えにくかった。
- ◇海外作家の作品は原題を掲載してほしかった。
- ◇シャトルバスを増やしてほしい。
- ◇撮影可能な作品を増やしてほしい。